

クォーターレポート（6月・9月・12月・3月の年4回発行）

気仙沼・南三陸だより

第26号 平成30年9月

発行：気仙沼地方振興事務所



気仙沼管内の宮城県公所が取り組んだ事業や催事などを四半期ごとに紹介します。

◆◆ 主な内容 ◆◆

- 気仙沼高等技術専門学校 平成30年度第1回オープンキャンパスを開催しました ほか
- 気仙沼地方振興事務所 農業農村整備部 南三陸地区(廻館工区)で田んぼアートを行いました ほか
- 気仙沼地方振興事務所 林業振興部 「愛鳥教室」を実施しました(愛鳥モデル推進校事業)
- 気仙沼地方振興事務所 水産漁港部 今季の養殖ギンザケの水揚げ ほか
- 気仙沼地方振興事務所 地方振興部 教育旅行誘致モニターツアーを開催しました

平成30年度第1回オープンキャンパスを開催しました (気仙沼高等技術専門学校)

6月17日、当校において高校生や一般の方々を対象に、第1回オープンキャンパスを開催しました。

このオープンキャンパスは、身近に技術を学べて就職に有利な資格が取得できる公共の職業訓練校としてのPRを目的に、毎年開催しているものです。

当日は高校生や保護者の方、また、子供連れの一一般の方々など34人の来校があり、自動車整備科、オフィスビジネス科、溶接科の概要について説明を行うとともに、施設を見学していただきました。

また、学生がこの日のために準備をしていた各科の体験コーナーでは、自動車整備科においては、エンジンの組立、大型車のタイヤの脱着やエアバック作動実験等を、オフィスビジネス科においてはパソコンを使用してカレンダーの作成を、溶接科では鉄板の切断や電気溶接を体験していただきました。

これらのほか、自動車整備科では学生と指導員で製作したスケルトンカーの展示や、溶接科では1枚の鉄板から製作した鉄兜の展示等、さらにペーパークラフトの体験やFCV(燃料電池自動車)の同乗体験をしていただきました。

第2回オープンキャンパスは、9月8日(土)に開催いたします。



自動車整備科



オフィスビジネス科



溶接科

在職者訓練「TIG 溶接基本作業」を開催しました (気仙沼高等技術専門校)

6月26日及び7月11日の2日にかけて、当校においてステンレス及びアルミの材料を溶接するTIG溶接の技能講習を開催しました。

この講習会は、気仙沼市内の事業所から、ステンレス及びアルミの材料を溶接する技能講習を開催してほしいとの要望を受け企画した、オーダーメイド型の職業訓練です。

1日6時間を2日間実施する合計12時間の講習会で、アルミ溶接コースとステンレス溶接コースに分かれ2日間講習を行いました。

参加者は、気仙沼市内の自動車整備工場や機械部品製作事業所等4社5人で、アルミやステンレスの溶接作業に携わる方などが受講されました。

受講者の皆さんは所期の目的を達成され、満足されていました。



学科講習



ステンレス溶接作業



アルミ溶接作業

南三陸地区(廻館工区)で田んぼアートを行いました (気仙沼地方振興事務所 農業農村整備部)

当管内では、農山漁村地域復興基盤総合整備事業(ほ場整備)として2地区(10工区)で工事が進められ、30~50アールに整備した農地が誕生しています。

南三陸地区「廻館工区」では、去年に引き続き廻館営農組合が中心となって、平成30年5月27日に田植えイベントが開催されました。約40アールの水田に茶色と黄色の古代米、ひとめぼれの3種類の苗を植付けし、田んぼアート「オクトパス君」が描かれました。当日は地元の学校や民間企業などから多くの参加者が集まり、約130名の方々に協力をいただきました。去年は強風により稲が倒れてしまいましたが、今年は色もはっきりと現れ、きれいに完成しました。



田植えの様子(H30.5.27 撮影)



田んぼアート(H30.7.2 撮影)

気仙沼市上廿一地区への援農ボランティアを行いました (気仙沼地方振興事務所 農業農村整備部)

当部では、現在、気仙沼市赤岩地区で中山間地域等農村活性化事業の一環としてNPOを活用した住民活動支援事業を進めています。平成30年6月9日には、援農ボランティア受け入れ体制支援として、気仙沼市上廿一地区で水田の除草ボランティア活動を実施しました。

総勢20名ほどの参加者が各農家の水田に入り泥に足をとられながらも、稲と稲の間に生えている雑草を手押しの除草機でかき混ぜながら、約4haの作業を行いました。

昼食では上廿一地区で収穫した米を使用した炊き込みご飯などの弁当が振る舞われ、参加者は中山間地域の自然豊かな情景を堪能していました。



除草作業の様子



手押し除草機

南三陸町入谷地区で水田の生きもの観察会を行いました (気仙沼地方振興事務所 農業農村整備部)

7月3日に、新童子下集落及び南三陸米地産地消推進協議会の主催により、水田に生息する生きもの観察会が行われました。

入谷小学校の児童11名の他、JA南三陸の関係者など計30名の方々が参加しました。児童の皆さんは、発見した生きもの名前を尋ねたり、観察用の虫かごの中でも快適に過ごせるように葉や木の棒を入れたり、生態についても積極的に学ぼうとしていました。

その後、南三陸米の試食会でおにぎりを一人2つずつ試食していましたが、児童の中からは更におかわりとの声が上がリ、南三陸米の美味しさを存分に味わっていました。



採集の様子



南三陸米の試食会

「愛鳥教室」を実施しました(愛鳥モデル推進校事業) (気仙沼地方振興事務所 林業振興部)

「愛鳥モデル推進校事業」は、野生生物保護思想の普及の一環として、児童生徒を対象とした各種保護活動による野生生物保護意識の啓発を図ることを目的としたもので、管内では「気仙沼市立新城小学校」が選出されており、平成30年度、31年度の2カ年で愛鳥教室や探鳥会などを実施する計画です。

6月12日は、身近に生息している野鳥を題材に、クイズ形式でわかりやすく、解説を交えながら2年生の児童29名を対象に「愛鳥教室」を実施しました。

最後の質問コーナーでは、難しい鳥の名前や生態についての質問などがあり、より野鳥についての関心が深まるとともに、愛鳥精神の醸成ができました。



鳥の名前当てクイズ



「愛鳥教室」の感想発表

養殖ギンザケの水揚げが震災後最高を記録～「みやぎサーモン」も売上好調～ (気仙沼地方振興事務所 水産漁港部)

平成30年3月26日に始まった管内の養殖ギンザケの水揚げは、7月27日に終了し、水揚げ数量は354.5トン(昨季比128%)、金額は20億2,042万円(同118%)、平均単価は570円/kg(同92%)となりました。今季のギンザケは目立った病害も見られず、春先から水温が高めに推移したことから成育が順調で、数量・金額ともに昨年を上回り震災後最高となりました。

昨年5月に県産活締めギンザケが「みやぎサーモン」として、県内初の地理的表示(GI)に登録されたところですが、管内では南三陸町の戸倉銀鮭養殖組合が「みやぎサーモン」の生や塩蔵品の販売とPRに取り組みました。受注販売に加え、毎週金曜日と土曜日には戸倉地区の「タブの木 漁協直販所」において直接販売が行われ、売上は好調でした。

また、6月17日に南三陸町で開催された「志津川湾銀ざけまつり福興市」では、みやぎ銀鮭振興協議会による1本売りの「みやぎサーモン」100尾が1時間ほどで完売したほか、ギンザケの切り身を巻いた長さ36mの巨大のり巻き作りが行われるなど盛況でした。



好評な「みやぎサーモン」(タブの木)



36mのギンザケ巨大のり巻き作り

第 17 回宮城県青年・女性漁業者交流大会 (気仙沼地方振興事務所 水産漁港部)

8月8日石巻市河北総合センターにおいて、「第17回宮城県青年・女性漁業者交流大会」(主催:宮城県、宮城県漁業協同組合青年部、宮城県漁業協同組合女性部連絡協議会)が開催されました。

この大会は、県内の青壮年・女性漁業者が一堂に会し、日頃の実践活動についての発表や意見交換を通じて、漁業・漁村の活性化に関する技術・知識の研さんを図り、沿岸漁業の振興に資することを目的として毎年開催されています。管内からは、宮城県漁業協同組合志津川支所戸倉出張所カキ部会の後藤清広氏と歌津支所女性部の三浦弘子氏が発表を行いました。

戸倉出張所カキ部会は、「持続可能で高品質なマガキの養殖生産～日本初の国際養殖認証「南三陸戸倉っこかき」の誕生～」と題し、過密養殖が課題となっていたカキの養殖施設を震災前の3分の1に削減することでカキの高品質化と生産量の増大を実現し、国内初のASC認証取得に至った取組を発表し、最優秀賞を受賞しました。

また、歌津支所女性部は、「目指せ!海難事故ゼロ～全ての浜に反射器設置を～」と題し、海難事故防止のために空き缶を活用して製作したレーダー反射器を地域の漁船や養殖施設などに設置し、普及に努めた取組を発表し、優秀賞を受賞しました。

今回、最優秀賞を受賞した戸倉出張所カキ部会は、来年3月に東京都内で開催される第24回全国・青年女性漁業者交流大会に県代表として推薦されることとなりました。



宮城県漁業協同組合志津川支所
戸倉出張所カキ部会



宮城県漁業協同組合歌津支所
女性部

教育旅行誘致モニターツアーを開催しました (気仙沼地方振興事務所 地方振興部)

7月30日、31日の2日間で、県内の小中学校の教職員等を対象とした「気仙沼市・南三陸町への教育旅行誘致モニターツアー」を開催しました。

東日本大震災以降、管内を教育旅行で訪れる県内の小・中学校が減少していることを受け、気仙沼市・南三陸町特有の体験学習や震災学習などのメニューを先生方に体験していただき、管内を訪れる学校が増えるよう、地域の魅力を伝えることを目的として企画しました。

震災復興語り部や、南三陸の漁業体験、気仙沼の製氷工場の見学などを実際に体験していただき、実際の受入の際の様子や受入可能人数等についてお伝えしました。管内には他にも、漁師まちならではの産業について学ぶコンテンツが多く用意されています。

参加の先生方からは、「生徒にも体験させたいメニューが多くあった」、「震災学習から、いのちの大切さを学ぶこともできる」などの感想をいただきました。



震災遺構見学の様子



漁業体験の様子